幸せでした。

涙夏?..

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せでした。

【コード】

N9400Y

【作者名】

涙夏? . .

【あらすじ】

君と見る、最初で最後の毎日。

「プロローグ」(前書き)

約束して欲しい事が二つあります。

- ・これは、私のオリジナル作品です。勝手に引用しないで下さい。
- ・書く事が好きな方達の集まりの場です。誹謗中傷などは受け付けません。

作品の投稿頻度は分かりません。

では、宜しく願います**

「プロローグ」

青い空、白い雲。空いっぱい広がる匂い。

この世界に産まれた意味、この気持ちをも、知ってしまった意味。

そんなの、何年経っても最後まで分らないけれど…

君と過ごしたこの季節は、きっと何年経っても色あせない素敵な思い出。

私の心にいつまでも残る、あの懐かしい思い出。

きっと貴方の心にも私の想が届きますように、例え全てじゃなくっても、

ほんの一部でも。

そして私は君に言うんだ。何度でも。

「しあわせでした。」ってね。

壊せない壁、

「…ああ、ロミオ。来てくれたのね」

「ああ、ジュリエット！もう離さないさ！」

でっかい声で愛を叫ぶロミオ。

「愛している。君を心から！さあ、こっちへ！」

ブチ。

ふん。馬鹿馬鹿しい。

「だーれーが。てめえの元に行くかよ。」

ってジュリエットが言えば、きつと物凄くうつけるのに。

あたし、時雨 皇月。（しぐれさつき）

あたしは、良く冷めると言われる。

そして、同じくらいに考えが大人だとも言われる。

…不思議だ。

一体、そう言ってくる奴は、あたしの何を知っているのだろうか。
じゃあ知っているのか？ あたしの数々の醜い痛みを。
なんて、そんなの知る筈もないが。

かと言って、別にあたしの全てを知って欲しいなんて感情は
全くない。むしろ逆だ。

気付かないで欲しい。あたしの心に。

誰も、分かってなんてくれないんだから。 どうせ。

今までだってそうだったんだ。

だからあたしは大丈夫。うまく、泳いでいける。

「さっちゃんー？ 起きてるなら降りてらっしゃいよー！」

2Fから、声の高いおばちゃんの声がする。
正直、耳が痛い。

これだけでかい音でテレビを流していたのだ。
消したら起きている事くらい分かるもの。
おばちゃんはこうやって、うまく私との距離をとってくれている。

そう、あたしは捨て子。
それを拾ってくれたのがおばちゃん。

捨てられたのは小さい頃なのにおばちゃんの事をどうしても
「お母さん」と呼んであげられないまま、
いくつもの時が過ぎた。 もうあたしは高校生だ。
もう、おばちゃんに育てられて何年の時が過ぎたんだろうか。

「はい。今行くよー。」

2Fに降りると、カレーライスの良い匂いがする。
もう充分、お袋の味。

「さっちゃん、おばちゃん何が変わったでしょう！きらりん」

ふっ。相変わらずテンションの高いおばちゃん。
だけどあたしは、心の中で笑うだけ。

「…んー。…か、」

つい、声が裏返ってしまい、良い直す。

「髪？」

「ぼんぴーんっ！ど？ど？」

「いや、前髪だけだし、何とも言いようが…。」

「でーすーよーね！」

流行の芸人のギャグを口走るおばちゃん。

だけどお馴染みの芸じゃなく、おじちゃんが好きなのギャグの部分
だから

すっごいマニアックで分かりづらい。

これも、おじちゃんへの愛だ。

あたしは、恵まれている。
「家族」がいる。

友達だっている。

恋人は居ないけど、それなりに好きな人もいた。

だけど、「幸せだ」と胸を張って言えないのは、
どうしてだろうか。

ここに存在する、見えない壁を見ているのは私だけなんだろうか。

おばちゃんは、いつも笑顔。

おじちゃんだって、いつも笑顔。

いつだって平和で。

いつだって誰かが居て。

だけと言えない。

あたしは「幸せだ」って。

言うてはいけない気がして、「所詮あたしは捨てられた子なんだ」
その想いがぐるぐる巡って、

最後に母が残したあたしへの言葉を、
きつとあたしは一生、忘れる事は出来ないだろう。

そしてあたしは一生、幸せになんかなれないのだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9400y/>

幸せでした。

2011年11月28日01時45分発行